



光が降り注ぐリビング・ダイニング。ここが主な生活スペースで、お子さんと過ごす時間も長い。だからこそ、住みやすい空間になるよう、こだわった



1: 玄関先に取り付けられた新聞受けは特別にデザインしたもので、奥様の希望だった。2: 外から見た時、かわいらしい照明が見える。照明が大好きな奥様は、はじめからこの照明をここに付けることを決めていたという。3: 呑川緑道沿いに建つW邸。立体感のある窓が印象的

緑道の空気を取り込んだ 緑と光あふれる子供と暮らす家

呑川緑道の桜並木沿いというロケーションを生かした外の雰囲気を感じられるよう、明るく開放的な空間に設計されたW邸。リビングからの大きなウッドバルコニーとらせん階段がアクセントになるこの家には、暮らしが楽しくなる魔法がある。
写真：工藤裕之



緑が生い茂り、その間から降り注ぐ木漏れ日が気持ちいい呑川緑道。涼しい季節には、散歩するのが楽しいこの緑道沿いに、大きなウッドデッキが印象的な家がある。ここW邸に暮らすのは、ご夫婦と4歳になる女の子。この秋には、もう一人お子

さんが生まれ、家族4人の生活がスタートする予定だ。
そんなWさん一家が住むこの家、外からぱっと見た時、窓が目立つのは、周りの壁を盛り上げ、立体的にして存在感を出したためだ。こちらは、雨だれ防止の機能も兼ね添えて

いる。また、アイアンの新聞受けも印象的だ。「新聞受けがどうしてもほしい」というのがかねてからの奥様の希望で、特別にデザインして作ったそう。W邸は、1階が子供部屋とご夫婦の寝室、2階には生活スペースであるリビング・ダイニングに浴室があり、2階かららせん階段が伸びてロフトへとつながる。

リビングの天井には、明かり取りの窓があり、光がふんだんに差し込む。家族で生活する場所だからこそ、最も力を入れたというリビングルーム。照明が白い壁を伝って部屋全体に明るく広がり、やわらかい雰囲気演出する。リビング正面に2つ並んだ緑道に面した窓からは外の緑が見え、別荘地にいるような感覚すら覚える。光が入りやすいデザインを考えた結果、このような窓の多い空

間が出来上がったのだそう。
2階には、家族が一体感を持つための工夫もこらされる。「家族がくつろいでいる時、一緒にいたい」との奥様の考えから、キッチンからはリビング・ダイニングが見渡せる構造に。まだ小さいお子さんの姿を、いつでも見ていられる。
キッチンの脇で、遊び心をくすぐるのが白と黒のらせん階段。「この家のスペースを考え、幅の狭いものを探していたらこれになりました」と奥様は言うが、リビング・ダイニングと浴室やトイレとの区切りとしての役割や、インテリアとしての役割を果たしている。ハシゴではなく、螺旋階段を取り付けたことで、ロフトに上がる楽しさも増えた。

広いウッドデッキバルコニーは、普段は洗濯物を干したり、夏には子



上：ロフトにつながる白いらせん階段がリビングのアクセントになっている。コンパクトな建物だが、より広く、開放感を感じられるよう、広いウッドバルコニーや吹抜が設けられている。右：色使いの楽しい1階のトイレ



とても明るいダイニングスペース。ここにいると、自然とこんな笑顔がこぼれる。ここは、キッチンからも見えるスペース。奥様が料理をしながらでも、お子さんの様子を見ることが出来る



Data

ユーロJスペース

デザイン、住みやすさ、住み心地。快適に、そして美しく暮らすためにこの3つをコンセプトに掲げている。クリエイティブプロデューサー穂満慎一が指揮をとり、デザインクオリティの高い家造りを追求している。

問い合わせ
ユーロJスペース
渋谷区広尾5-16-2
KITAMURA 65KANN 2F
http://www.euro-j.com/
☎0120-074-186
設計者 穂満慎一 (HOMANN)



上：広いバルコニー。春、ここは花見の特等席。目の前に広がる香川緑道の桜を楽しめる。右：リビングすぐ横がバルコニーになっている。緑の多いこの場所を生かし、外の雰囲気を取り入れた、明るく開放的な空間だ



涼しい季節には
バルコニーで
ピクニック



Setagaya Architecture



1：色使いが統一された子供部屋。将来のことを考え、ドアを二つ取り付け、部屋を仕切れるようにした。2：子供部屋の壁には、緑と黄色のガラスブロックが。ちょっとした遊び心が部屋に色を添える。3：窓を覆うカーテンは奥様のチョイス

供用のビニールプールを出したりするが、涼しい季節には、こちらで「ピクニック」をするそう。どうやら、アウトドア用のテーブルと椅子を出し、ここで家族で食事をすることをピクニックと呼んでいるようだが、こは、そう呼ぶにふさわしい空間だ。何しろ木の柵が外からの視線を遮ってくれるため人目を気にすることなく、思う存分くつろぐことができるのだ。桜の時期ともなれば、この木が満開に花を咲かせ、お花見の特等席となる。香川緑道という場所を最大限に生かした、贅沢な空間がここにある。

小さなお子さんがいるための工夫も、ところどころに見られる。階段の端は、安全を配慮して丸く加工。また、子供部屋には、ドアを二つ取り付け、将来部屋を仕切れるようにした。この部屋の雰囲気作りには、奥様のこだわりが現れている。照明と床に敷いたマット、飾りのガラスブロックは、緑とオレンジで統一。照明好きの奥様は、この照明を取り付けることをあらかじめ設計者と相談していたそう。それに合わせ、部屋のアクセントとなるカラフルな窓ができた。ちょっとした小物から出てきた、そんな遊び心が素敵だ。「夜になると、家の窓からこぼれる光がすごくきれいなんですよ。」と奥様。そんな明かりのように、温かい生活がこの家の中で営まれている。お子さんとご夫婦が楽しく住むために、必要要素に遊び心を取り入れた、住みやすい空間がここにある。